

# 経済情勢 (12月<sup>(注)</sup>の経済指標を中心に)

(全国) 景気は緩やかな回復基調にある。

(中国)<sup>(注)</sup> 景気は「平成30年7月豪雨」の影響が低減し、緩やかな回復基調にある。

(注) 中国地域については、12月分の「中国地域鉱工業生産動向」が本レポート作成時点で未公表かつ公表時期未定のため、1. 景気動向指数は11月の算出結果、6. 生産動向は11月の値に基づく判断を記載するとともに、景気の総括判断は、生産動向以外の個別項目の判断に変更がないことを勘案し、前月から据え置いている。

(全国)

個人消費	堅調に推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数(12月)は前年を上回った
設備投資	機械受注額(12月)は前年を上回った
公共投資	公共工事請負額(12月)は前年を上回った
輸出	輸出金額(12月)は前年を下回った
生産動向	緩やかな増加基調にある
雇用情勢	求人倍率が高水準で推移するなど、労働需給は引き締まっている

(中国)

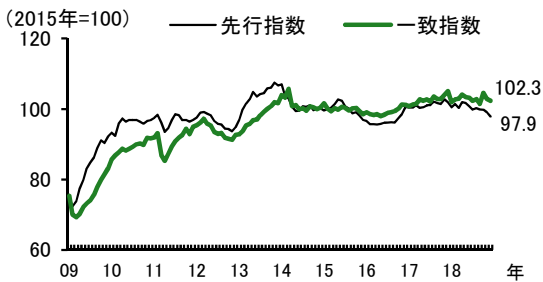
個人消費	堅調に推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数(12月)は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額(12月)は前年を上回った
輸出	輸出金額(12月)は前年を上回った
生産動向 <sup>(注)</sup>	豪雨による落ち込みから回復し、緩やかな増加基調にある
雇用情勢	求人倍率が高水準で推移するなど、労働需給は引き締まっている

## 1. 景気動向指数(全国12月, 中国11月<sup>(注)</sup>)

(全国) CI一致指数は2カ月連続で低下している。  
 (中国)<sup>(注)</sup> CI一致指数は2カ月連続で上昇している。

(注) 中国地域の景気動向指数については、算出に使用する12月分の「中国地域鉱工業生産動向」が本レポート作成時点で未公表かつ公表時期未定のため、11月の算出結果を記載した。

(全国)  
 ・CI一致指数は102.3(前月差▲0.6ポイント)。  
 2カ月連続で低下。  
 ・CI先行指数は97.9(同▲1.2ポイント)。  
 4カ月連続で低下。



CI一致指数(前月差) ▲0.6

指標名	寄与度
商業販売額(卸売業)	▲0.38
有効求人倍率(除学卒)	▲0.16
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲0.16
鉱工業生産財出荷指数	▲0.05
鉱工業生産指数	▲0.02
商業販売額(小売業)	▲0.01
所定外労働時間指数(調査産業計)	▲0.01
営業利益(全産業)	0.06
耐久消費財出荷指数	0.10

(中国, 11月)  
 ・CI一致指数は132.5(前月差+2.0ポイント)。  
 2カ月連続で上昇。  
 ・CI先行指数は117.7(同+4.0ポイント)。  
 2カ月連続で上昇。



CI一致指数(前月差) 2.0

指標名	寄与度
鉱工業生産指数	1.12
最終需要財出荷指数	1.06
全産業業況判断DI	0.62
有効求人倍率	0.33
所定外労働時間(製造業)	0.01
電力需要量	0.01
電力利用率	0.00
生産財出荷指数	▲0.07
通関輸入額	▲0.98

CI先行指数(前月差) ▲1.2

指標名	寄与度
最終需要財在庫率指数(逆)	▲0.59
東証株価指数	▲0.34
日経商品指数(42種総合)	▲0.22
鉱工業生産財在庫率指数(逆)	▲0.18
中小企業売上げ見通しDI	▲0.15
消費者態度指数	▲0.05
新規求人数(除学卒)	0.07
マネーストック(M2)	0.12
新設住宅着工床面積	0.14
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

CI先行指数(前月差) 4.0

指標名	寄与度
新規求人倍率	1.60
建築物着工床面積	0.93
生産財生産指数	0.88
鉱工業製品在庫率指数(逆)	0.85
新設住宅着工戸数	0.28
中小企業業況判断DI次期見通し	0.13
銀行貸出残高(前年比)	0.03
実質百貨店販売額(前年比)	▲0.18
消費者態度指数	▲0.43

- 注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。  
 2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。  
 3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することは適切ではない。  
 4. 中国地域の景気動向指数は、2014年1月値公表時から新景気動向指数を適用(エネルギー地域経済レポートNo.477(2014.4)の解説参照)

資料: 全国は内閣府「景気動向指数(速報)」, 中国は当社で作成

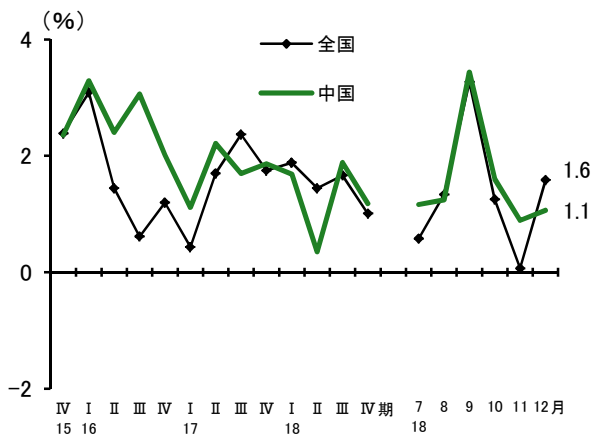
## 2. 個人消費 (12月)

全国、中国ともに堅調に推移している。

### ● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) 百貨店などが減少したものの、家電大型専門店などが増加したことから、7カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.6%)。

(中国) 百貨店などが減少したものの、コンビニエンスストアなどが増加したことから、7カ月連続で前年比プラス(同+1.1%)。



注: 1. 全店舗ベース 2. 最新月は速報値

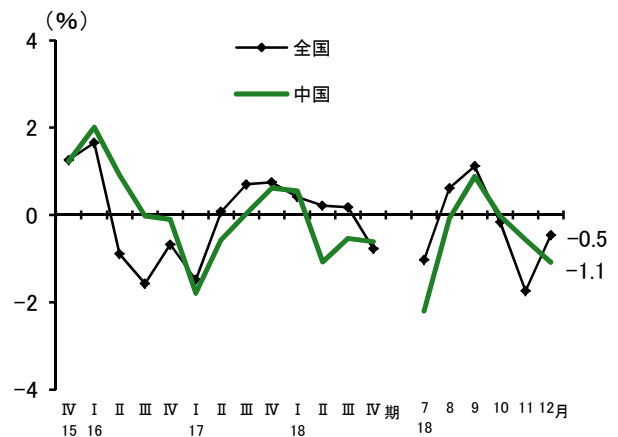
3. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター

資料: 経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域百貨店・スーパー販売動向」「中国地域専門量販店販売動向」

### ● 百貨店・スーパー販売額 [対前年伸び率]

(全国) スーパー(前年同月比+0.7%)が増加したものの、百貨店(同▲2.5%)が減少したことから、3カ月連続で前年比マイナス(同▲0.5%)。

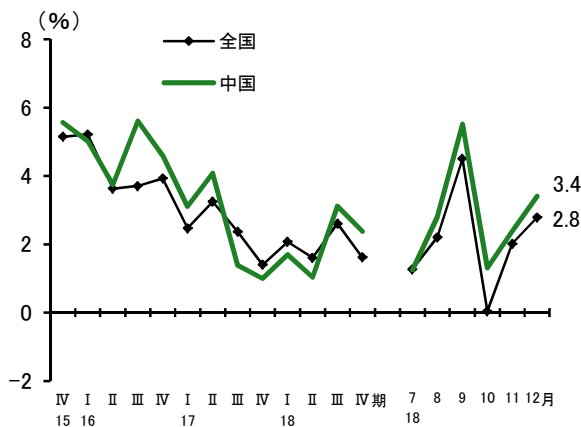
(中国) 百貨店(同▲2.5%)、スーパー(同▲0.5%)がともに減少したことから、3カ月連続で前年比マイナス(同▲1.1%)。



### ● コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

(全国) 弁当・おにぎり等の日配食品の増加などから、70カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.8%)。

(中国) 店舗増(同+1.9%)などもあって、7カ月連続で前年比プラス(同+3.4%)。



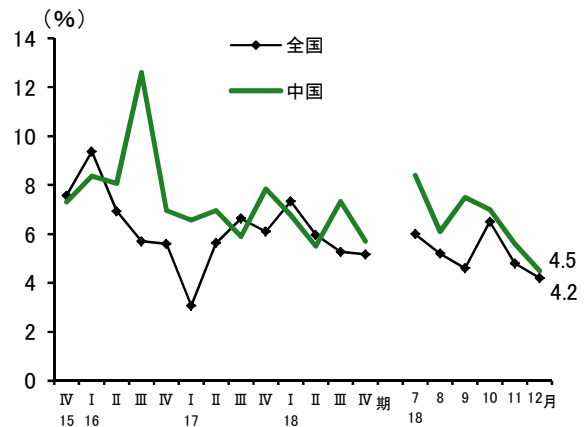
注: 1. 全店舗ベース 2. 最新月は速報値

資料: 経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域百貨店・スーパー販売動向」「中国地域専門量販店販売動向」

### ● ドラッグストア販売額 [対前年伸び率]

(全国) 店舗増(前年同月比+5.2%)などから、45カ月連続で前年比プラス(同+4.2%)。

(中国) 全国と同様に店舗増(同+4.8%)などから、45カ月連続で前年比プラス(同+4.5%)。





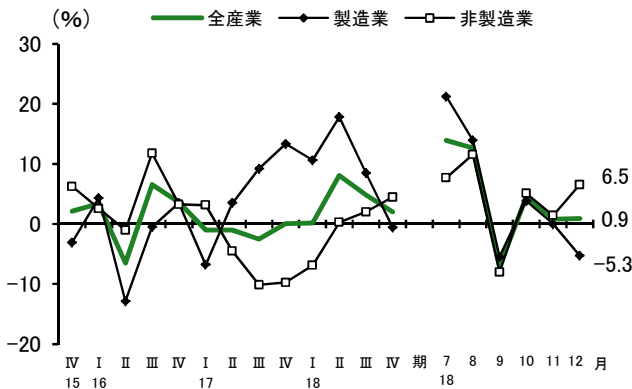
#### 4. 設備投資・公共投資（12月）

機械受注（全国）は製造業が減少したものの、非製造業が増加し、前年を上回った。  
公共工事請負額は全国、中国ともに前年を上回った。

##### ● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 3カ月連続で前年比プラス（前年同月比+0.9%）。
- ・ 製造業（同▲5.3%）は、電気機械、はん用・生産用機械などが減少。
- ・ 非製造業（同 6.5%）は、通信業、運輸業・郵便業などが増加。

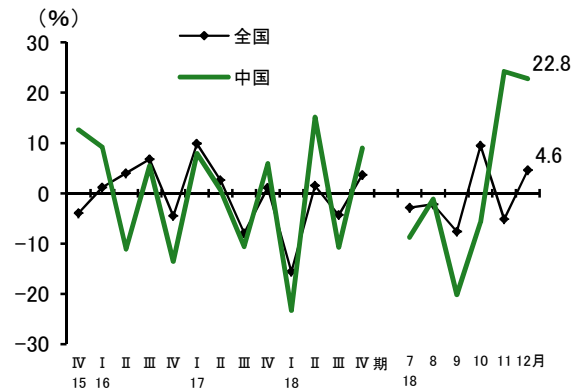


注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証株、東日本建設業保証株、西日本建設業保証株「公共工事動向」

##### ● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

- (全国) 国などからの発注が減少したものの、独立行政法人等や都道府県などが増加したことから、2カ月ぶりに前年比プラス（前年同月比+4.6%）。
- (中国) 独立行政法人等からの発注が減少したものの、県が大幅に増加したことなどから、2カ月連続で前年比プラス（同+22.8%）。

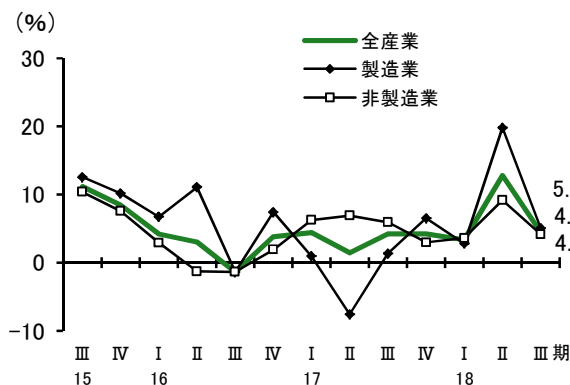


##### ● 法人企業統計（2018年7-9月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 7-9月期の設備投資額は、8四半期連続の前年比プラス（前年同期比+4.5%）。
- ・ 製造業は5四半期連続のプラス（同+5.1%）。
- ・ 非製造業は8四半期連続のプラス（同+4.2%）。



注：1. 金融業・保険業を除くベース

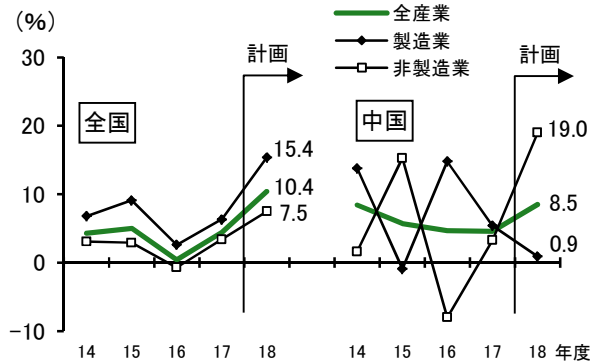
2. ソフトウェア投資額を含む

資料：財務省「法人企業統計」

##### ● 企業短期経済観測調査（2018年12月調査）

設備投資額 [対前年伸び率]

- (全国) 18年度の設備投資は7年連続で前年度を上回る計画（前年度比+10.4%）。製造業、非製造業ともにプラス。
- (中国) 18年度の設備投資は6年連続で前年度を上回る計画（同+8.5%）。製造業、非製造業ともにプラス。



注：1. 企業短期経済観測調査（以下、短観）は四半期ごとに公表されている

2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない

資料：日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

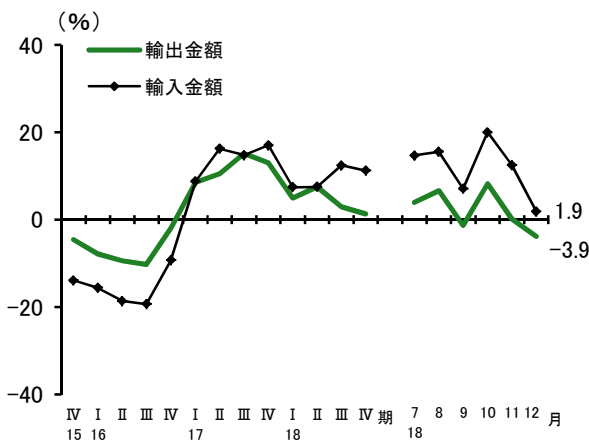
## 5. 輸出・輸入(12月)

輸出金額は全国が前年を下回ったものの、中国は前年を上回った。

### ● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

#### (全国)

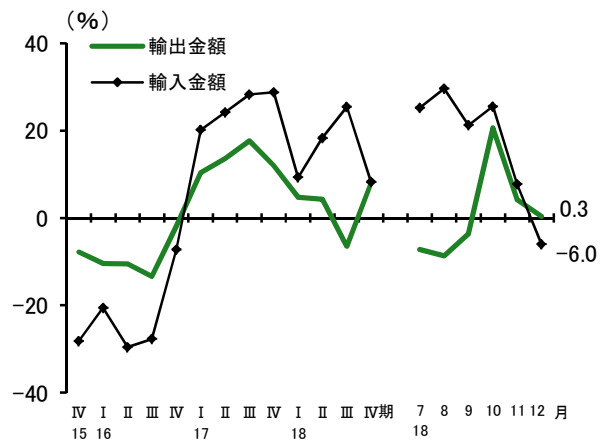
- ・輸出金額は3カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲3.9%)。半導体等製造装置、通信機、半導体等電子部品などが減少した。
- ・輸入金額は9カ月連続で前年比プラス(同+1.9%)。液化天然ガス、航空機類、原油などが増加した。



注：1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)  
資料：財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

#### (中国)

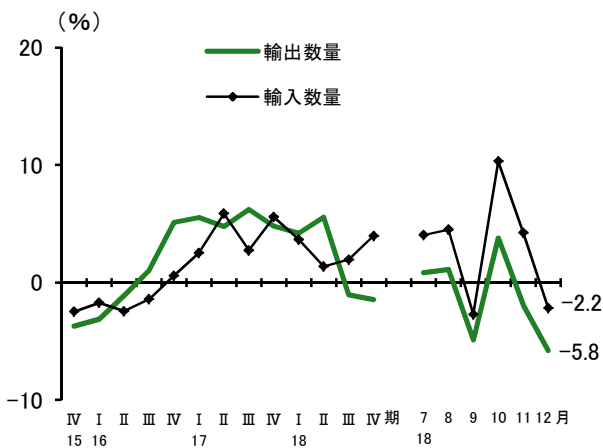
- ・輸出金額は3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+0.3%)。自動車、半導体等電子部品などが増加した。
- ・輸入金額は24カ月ぶりに前年比マイナス(同▲6.0%)。原油、非鉄金属鉱、鉄鉱石などが減少した。



### ● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

#### (全国)

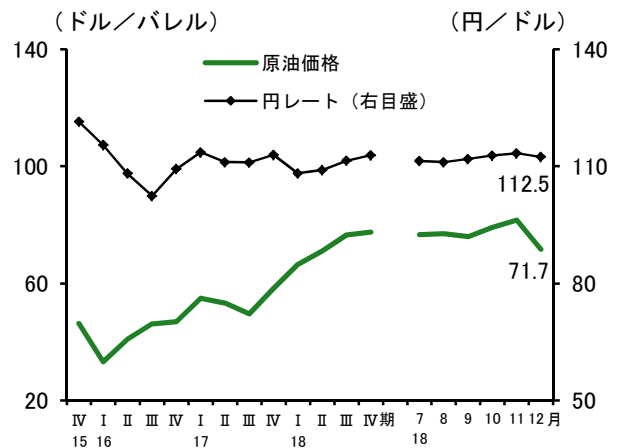
- ・輸出数量は2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲5.8%)。
- ・輸入数量は3カ月ぶりに前年比マイナス(同▲2.2%)。



注：1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報；輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関CIF価格  
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月中平均値  
資料：財務省「貿易統計」

### ● 原油価格・円レート

- ・原油価格は71.7ドル/バレルと前年に比べ9.2ドル上昇(前月に比べ10.1ドル下落)。
- ・円レートは112.5円/ドルと前年に比べ0.5円の円高。



## 6. 生産動向 (全国 12月, 中国 11月)<sup>(注)</sup>

(全国) 緩やかな増加基調にある。

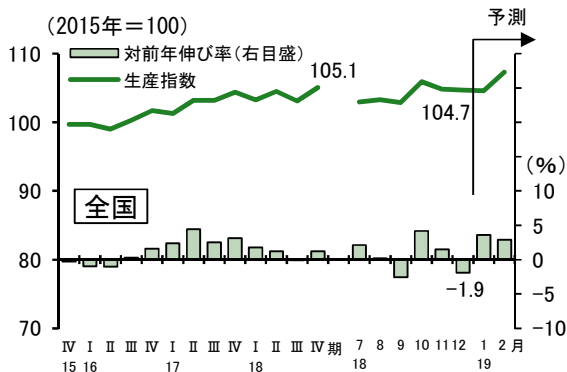
(中国)<sup>(注)</sup> 豪雨による落ち込みから回復し、緩やかな増加基調にある。

(注) 中国地域の実動向については、12月分の「中国地域鉱工業生産動向」が本レポート作成時点で未公表かつ公表時期未定のため、11月の値に基づく判断を記載した。

### ● 鉱工業生産指数 (総合)

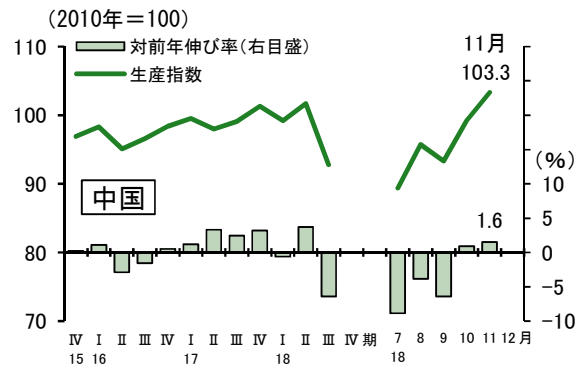
(全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、化学などが低下したことから、104.7 (前月比▲0.1%) と2カ月連続で前月を下回った。一方、四半期ベースで見ると10-12月期は105.1と2018年で最も高い水準となった。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲1.9%と3カ月ぶりに前年を下回った。



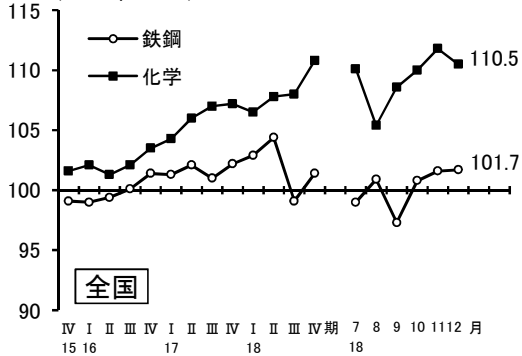
(中国, 11月)

- 生産指数 (季節調整済) は、はん用・生産用・業務用機械、船舶などが上昇したことから、103.3 (前月比+4.1%) と2カ月連続で前月比プラスとなり、豪雨前の水準を上回った。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+1.6%と2カ月連続で前年を上回った。

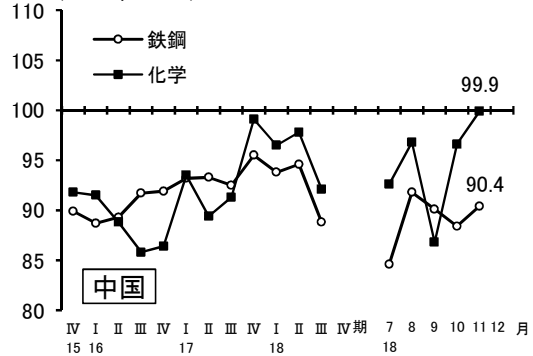


### ● 鉱工業生産指数 (素材)

(2015年=100)

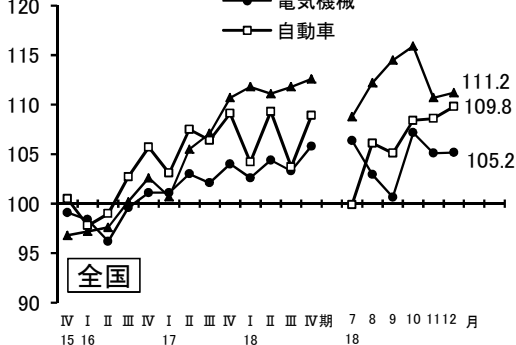


(2010年=100)

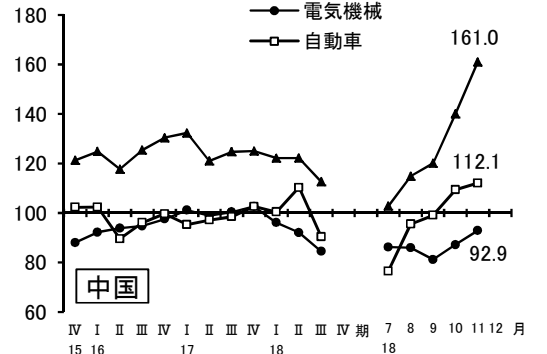


### ● 鉱工業生産指数 (機械)

(2015年=100)



(2010年=100)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値  
5. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用 (電気機械工業, 情報通信機械工業, 電子部品・デバイス工業の合計)  
6. 「自動車」は中国では「自動車工業 (乗用車・トラック・主要部品)」

資料：経済産業省「鉱工業 (生産・出荷・在庫) 指数確報」, 中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」



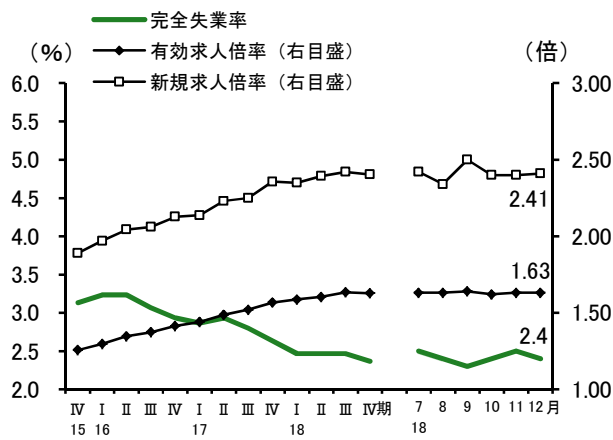
## 7. 雇用情勢(12月)

全国、中国ともに求人倍率が高水準で推移するなど、労働需給は引き締まっている。

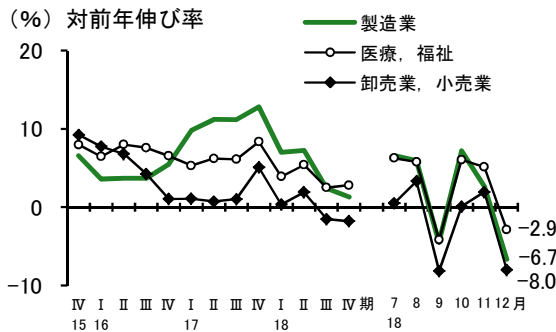
### ● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

#### (全国)

- ・完全失業率は2.4%と前月から0.1ポイント低下。
- ・有効求人倍率は1.63倍と前月から横ばい。
- ・新規求人倍率は2.41倍と前月から0.01ポイント上昇。

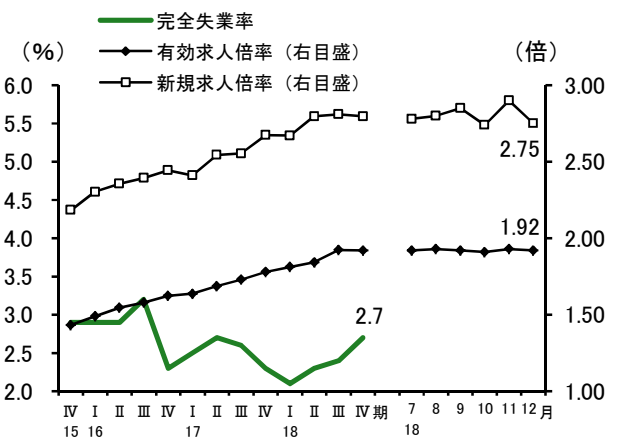


主要産業における新規求人数の推移(全国)

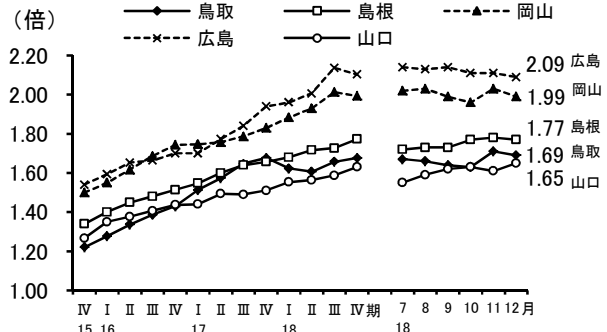


#### (中国)

- ・10-12月期の完全失業率(原数値)は2.7%と前年同期比で0.4ポイント上昇。
- ・有効求人倍率は1.92倍と前月から0.01ポイント低下。
- ・新規求人倍率は2.75倍と前月から0.15ポイント低下。



有効求人倍率の推移(中国5県)



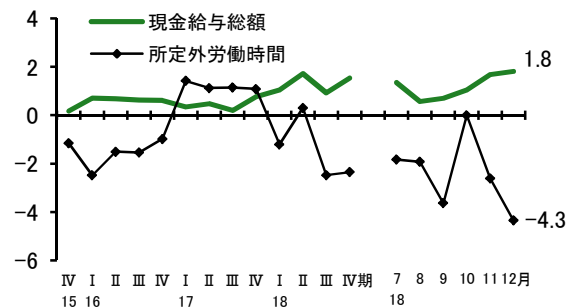
注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値  
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

### ● 現金給与総額、所定外労働時間

#### (全国)

- ・現金給与総額は17カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.8%)。
- ・所定外労働時間は2カ月連続で前年比マイナス(同▲4.3%)。製造業は3カ月ぶりに前年比マイナス(同▲2.9%)。

#### (%) 対前年伸び率



注：1. 事業所規模5人以上の指数(2015年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値  
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」